

第3回タウンミーティング（こども子育て） 会議録

日時：R6.10.26(土) 13:30～15:00

司会)

開会前のご案内をいたします。携帯電話やスマートフォンをお持ちの方はマナーモードにしてください。電源をお切りくださいますようお願いいたします。また、撮影や録音についてはご遠慮いただけますようお願いいたします。なお、本日のタウンミーティングの様子は市の方で撮影録音し、後日、前橋市の公式 YouTube にアップロードするなど、広報活動に利用いたします。また、報道機関等が取材撮影をし、その後報道を配信されることがありますのでご了承ください。

司会)

それでは、定刻となりましたので始めさせていただきます。皆さんこんにちは。本日は令和6年度第3回前橋タウンミーティングにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。本日司会を仰せつかりました青柳と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは開会に当たりまして、小川市長から挨拶を申し上げます。

市長)

皆さん改めましてこんにちは。今日はタウンミーティングにお集まりいただきましてありがとうございます。今年はこのタウンミーティングというのをたくさん開催したいなと思っていて、今日も3回目になるんですけれども、毎回テーマを変えながら市民の皆さんのいろんな声を聞きたい、声を聞くだけではなくて、前橋のことについて皆さんと一緒に考える時間を作りたいということでやらせていただいています。

今日の第3回目はテーマを「みんなで考える！前橋のこども・子育て」ということで。子育て中の保護者の方や、子育てに興味のある方、みんなに集まっていただいて、これからの前橋をどういうまちにしていくのか？こどものまち前橋を作っていくにはどうしたらいいのか、という話をしていけたらなと思っています。

色々なところで、今子育て中の方もそうですし、地域で活動している方のお話を聞くと、活動している団体さんとかNPOとかいっぱいあるんですけれども、情報が一元化して分かるようになっていないとか。子供のイベントがここを見れば全部一覧が分かるようになって欲しいという声もたくさんいただいておりまして、そういうこともあって今日は私が話をして質疑応答するだけではなくて、実際に子供に関する活動をしていただいているNPOの2団体に来ていただいて、この後一緒に活動報告してもらったり、みんなでじゃあこういう活動だったらできるなというのも共有していけたらという風に思っています。

とにかく 3 時までみんなで楽しい時間を作っていけたらという風に思いますので、私もシーンとなると緊張しちゃうので、途中で合いの手入れたりしながら、楽しい時間を作っていけたらと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司会)

さっそく、小川市長からなんですけれども、前橋市の子ども政策をテーマに市政報告から行きたいと思います。お願いいたします。

市長)

冒頭なんですけれども、市政報告という堅いところではなくて、これから子どものまちを作っていくということで前橋市が取り組んでいることを紹介させてもらいたいと思います。

子供のまち前橋ということで、子供たちの笑顔が溢れる街を作りたいということで、今前橋市、市役所の中のみんなで取り組んでいるところになります。何で子供を子供と言ってるかということ、ちなみに市役所はいろんな分野に取り組んでいるんですけれども、とにかく子供、子育て、教育を最優先にしたいということで、今あちこちで発言しているんですが、やはり子供たちが笑顔で輝ける。すくすく成長できる。将来の人材をしっかりと育てられるという仕組みが作れないと、まちの未来は明るくないんじゃないかと思っています。

子供となるとどうしても少子化とか生まれる子供の数が毎年毎年減っているだとか。高齢化が進んでいて子供が少ないというようなマイナスのニュースが多いんですけれども、そうではなくて、本当に明るい気持ちでみんなが子供のことを捉えられるような、そういうまずは気持ちの部分で前向きなまちを作っていきたいなと思っています。

しかし、現状をちょっとだけ見てみますと、人口については、これはだんだん、2000 年をピークに全国どこも減っておりまして、前橋も今後も人口がどんどん減っていくだろうという風に予想がされています。

これは全体の人口ですけれども、当然子供たちの数も減っていて、毎年毎年、前橋市内でも生まれる子供自体の数がこう減っているというような状況になっています。こういうのが続いていくと、小学校も今 2 クラスあるところが 1 クラスになってしまうだとか住んでる地域の様々な子供のいる場所っていうのが減っていつてしまうんじゃないかという不安も出てくるような状況にもなっています。

これは長期的に見た人口の動態ですけれども、1 年ごとに見た場合、前橋市、前橋だけではなくて、これは多くの地方都市が同じ状況なんですけれども、若い世代 15 歳から 29 歳までの若者はどうしても首都圏に流出してしまうというような傾向が続いています。高校に進学する、大学に進学する、あるいは高校卒業した後に就職をするというタイミングで、東京とか埼玉県都市部に若者が一旦出て行ってしまいます。前橋は特に以前からこういった傾向があるということになっています。

これはただ、出ていくだけではなくて、将来戻ってくる人もいますし、前橋出身の人でなくても前橋を気に入って移住してくる人もいるというような状況もあるので、これは出ていく数で見てもすけれども、戻ってくる人とか移住者を増やしていくというところも、前橋としては大事な要素になってくると思います。その前橋に来てもらうための魅力というのをしっかり作っていききたいと考えています。

これは出ていく 15 歳から 29 歳の転出の状況ですけれども、もう少し細かく見ていった時に私が心配しているのは、この 15 歳から 29 歳に赤く下に向いているところもそうなんです、それよりももっと若い子供たちですね。0 歳から 4 歳と 5 歳から 9 歳までの世帯というのも市外に転出してしまっているというのがこれです。

今まではこういう傾向はなかったんですけど、引っ越してくる人、出ていく人を合わせると前橋に入ってくる子供たちの方が多かったんですけども、ここに来て出ていく人が増えているという風になると、では 0 歳から 9 歳までの小さい子供を育てている 20 代とかの世代が前橋から外に引っ越してしまっているというのが、この数字からも読み取れるので、そういった世代に対する、前橋のメッセージとか、課題というのもしっかり考えていく必要があると思っています。子育てをしている世代に前橋にしっかり残ってもらう、前橋にいてもらえるような環境が今求められてるのかなと思っています。

少子化が進む中で、子どもたちを取り巻く課題というのは色々発生しておりまして、児童虐待も相談件数は年々伸びている状況になっています。これは相談しやすい環境が整ってきているということもありますけれども、件数として非常に多い状況になっていますし、子どもの貧困という言葉も皆さん聞いたことあると思うんですけども、貧困の状況にある、可処分所得の中央値の半分以下の世帯という、平均的な家の半分ぐらいの所得で生活をしている家庭の子供たちが 10 人に 1 人ぐらいいるという風に言われています。また不登校も年々増えていますし、ヤングケアラー、家族の世話をしている中学生も 17 人に 1 人調査をした結果、いるという風に言われています。こういった子供たちの状況もなんとか地域の力で解決していくことができないかなと思っています。

子どもたちに投資をすること、色んなところで、私も子供のことを色々やりたいですという、特に高齢者の方から子どもも大事だけど、じいちゃん、ばあちゃんも大事にしてくれと言われることが多いんですけども、もちろん高齢のみなさんも大切にすると、子どもを大事にするということが、子供だけではなくて、あるいは子育てしている世帯のためだけではなくて、地域全体の、皆さんの好循環につながる大事な要素なんだというのをしっかり伝えていきたいと思っています。

子どもたちがしっかり育つことは、経済にとっても良いことですし、地域の社会にとっても良いことですし、おじいちゃん、おばあちゃんたちの社会保障を考えた上でも、その世代に投資をしていくということが長い目で見れば大事なことになってきます。ここをみんなで共有することから始めないと、なかなか前橋の子供のことをみんなで考えていこうという風にならないので、まずはしっかりと子育てしている世帯にだけではなくて、子供がいない世帯にも、子育てが終わった世帯に

も、あるいは企業の経営者の方にとっても、誰にとっても子供の問題というのは大事なんだというのを、まずは認識を共有したいと思っています。

子供政策、これは将来にも繋がってくることになります。もちろん人材の育成になりますし、通学路の安全対策は子供たちだけではなくて、障害のある方や高齢者の方にとっても歩きやすい道、安全に移動ができるそういった取り組みになりますし、いじめの問題も学校だけで起きているわけではありません。社会に出てからも今ハラスメントだとか多様性の問題というのが起きているので、人権については子供たちの頃から学ぶ機会を作っていきたいと思いますし、仕事と子育ての両立、子育てのことは大切な課題と捉えています。

今話をしていると会社の経営者の方から子育て政策、本当にしっかりやってくれと言われることが多いです。社員が保育園に預けられないとか、何かあった時に会社を休むという状況が続くと、非常に経営にとっても影響が大きいということで、経済界の皆さんもすごく今子育てのことを考えてくれているので、介護もそうです。ですので、仕事と家庭の両立というのは大きなテーマになっていますし、不登校についても学校にいる、在籍中は不登校という話になりますが、卒業する年代になると、それがひきこもりの対策という風に移っていきますし、8050問題、高齢の親が50代60代の子供を支えているというような家庭も見えてこないけれども、現実にはたくさんあるというのを解決するための糸口が子供子育て施策にはあるという風に思います。

今年、前橋がそういった意味でこども子育てをとにかく最優先に進めていくんだという中で、大きく2つ動いているものがあります。

1つがこども基本条例というこどもたちの権利をしっかり守ってこどもの意見がまちづくりに反映できるような、そういった条例を作りたいということで、条例の策定に向けた取り組みというのも行っています。合わせて子供計画ですね。国のこども基本法に基づいて、こども施策を総合的に進めるための新しい計画を作ろうということで、この2本立てで今取り組みを進めています。

そして、作る時に前橋市だけでなく、県とかもそうなんですけど、地方自治体はたくさん計画を実は持ってるんですけど、皆さんにはあまりその計画の中身が知られていなかったり、どういう内容か難しくて分からないとかあるんですけど、作っても知られない、知られていないというのでは意味がないと思うので、こども計画にしてもこども基本条例にしても作る段階で市民の皆さんにもたくさん参加をしてもらいたいと思っています。タウンミーティングでも皆さんにお伝えして意見を聞かせてもらいたいと思っています。そして、計画や条例の中にも反映させていきたいなと思っています。

皆さんの意見を取り入れることで、本当の意味で市民参加のまちづくりというのに進んでいきますし、市役所が勝手に決めて勝手に進めてるとなると、多分納得度も低くなってしまうと思うので、本当に市民のニーズにあった政策、あるいは自分たちが思っていることが形になってくれば、より一層愛着も湧いてくるので、そういった意味ではこどもについてはみんな考えてもらって、みんな

などで計画を作る、みんなで条例を作るという形を取っていききたいなと思っています。

今年タウンミーティングやワークショップをたくさんやらせていただいて、また専門家の意見ももちろん聞かせていただいて、条例と計画については、あと1年ぐらいかけて、皆さんの取り組みも反映させながら、令和8年の4月には施行したいと考えています。

これは計画と条例の話ですけれども、具体的な個々の取り組みについては今年度も少し前に進んだものもありまして、そちらを最後に紹介したいと思います。

まず、給食費の無償化については今年度中学校の給食費を無償化ということで進めさせていただきました。中学生になると皆さん部活があったり、塾に通い始めたりと非常に子育てに対する経済的な負担も大きくなっていくということで、まずは中学校の給食費、毎月少しの金額ですけれども負担を減らすという形で、給食費に今まで使っていたものを子供たちの学びや、あるいは部活動の地域移行というのこれから始まっていきますけれども、地域で何かスポーツをやったりする時に使っていただきたいと思っています。

また、こども誰でも通園制度という、保育園に預ける時には今親が働いてないと預けられませんという要件があるんですけれども、そういった就労要件を問わずに預けられる。誰でも通園制度というの6月から試行的に始めています。こういった誰でも通園制度というの、新しい取り組みで始まってきていますし、10月には前橋の駅前、ブリリアンタワーというマンションが建ちましたけれども、その2階に前橋すくすくこども館という一時預かり、予約をすればこどもをいつでも預けられるというような場所ができました。こちらも人気というか予約が入ってまして、預けたいというニーズが結構あるというのが、実際に分かってきたところです。

こどもにとってもいろんな場所で他のこどもたちと接する機会というの大事な場所になってきますし、保護者の方にとってみると、何か急な用事で本当に預ける場所がないという時であったり、それだけじゃなくて親が自分の息抜きというか育児の大変さから少しリフレッシュしたいという時にも使っていただけたらするので、大変なところというのを解決するためにもどんどん利用していただけたらなと思っています。

また、産後ケアについても訪問型を無償化ということで、今年度から無償にさせていただきました。0歳から1歳の間の虐待死であったり児童虐待というところが一番リスクが大きいところなので、お母さんたちの産後のケアというのはしっかり取り組んでいきたいと思っています。こういったところを利用していただいて、みんなで子育てをしている方々を支えるような仕組みを作りたいと考えています。

これ以外にも前橋はたくさんの子育て関連施設があります。児童文化センターもそうですけれども、元気21の子育て広場だとか、こども図書館も毎日たくさんの方に利用していただいていますし、るなばあく、前橋児童遊園も今年70周年を迎えます。本当に何世代にも渡って愛されている遊園地、日本一懐かしい遊園地もありますし、子供よりも少し大きくなったら、高校生向けの学習室という

のも用意していて、高校生にたくさん使っていただいているので、こういった子供たちが育つ環境というのは、今後もしっかりと充実させていきたいと思っています。

高校生まではこう見ると色んな仕組みがあって、医療費なんかも高校生まで無料になっているので子供たちにとって前橋市はこういうことやってくれてるとか、今年は中学校の体育館にエアコンつけようとかというのを始めたので、そういうのはなんとなく伝わっているんですけど、最近大学生と意見交換する機会がありまして、大学生になると途端に高校生までは市がやってくれてるけど、大学生向けには何かやってくれてるんですか？というので急に高校卒業した後の若者との行政のつながりっていうのが分かりにくくなってしまいうんだなっていうのもあったので、若い世代、大学生ぐらいも含めていろいろ関わっていただいて、まちづくりに若者の声もつなげていきたいなと考えているところになります。

冒頭、簡単に前橋の政策を紹介させていただきましたけれどもこの後 NPO の皆さんの活動も紹介していただいて、その後意見交換ということで、皆さんからもいろんな話題提起とか質問をいただきながら、前橋の子供たちのことについて考えていけたらと思っております。冒頭の説明は以上となります、ご静聴どうもありがとうございました。

司会)

ありがとうございました。いろんな子どもの政策が始まっているんだなということがよく分かりました。この後、市長を交えて意見交換もありますので、是非皆様の意見よろしくお願ひしたいと思ひます。続きまして、子ども子育て支援活動に取り組む団体のお二人から実践報告をいただきたいと思ひます。まずは、NPO 法人教育支援協会北関東代表理事の井熊ひとみさんです。

井熊さんのご紹介をさせていただきます。子どもたち誰もが平等な学びと体験が得られるよう、地域の公共施設等を活用した、地域子ども教室を運営するほか、子どもたちの放課後の居場所づくりとして、前橋市内 3 か所で放課後児童クラブを運営していらっしやいます。また、困難を抱える中学生への学習支援や、前橋市と共同でひとり親家庭の子ども向けに自然体験事業に取り組むなど、子どもたちの健全育成とそのために必要な改革の実現を目的に活動されていらっしやいます。井熊さん、よろしくお願ひいたします。

井熊さん)

はい、ありがとうございます。今、ご紹介いただきました、NPO 法人教育支援協会北関東の井熊と申します。どうぞよろしくお願ひします。タイトルが未来を担う子どもたちの育ちへということでお話をさせていただきます。自己紹介ですが、私は英語を偶然知ったということから英語を教える仕事をしております。その中で NPO ってなんだろうと手探りで仲間と一緒に今挑戦している最中です。人が喜んだり笑顔になることが大好きで、いわゆる周りの人は私をおせっかいおばさんと呼んでおります。群馬県生まれの群馬県育ちで家族がおります。

私どもの活動というのは、いっぱい書いてありますけれども、まずは放課後、それから子どもたち、英語といった身近なキーワードから活動をスタートいたしました。今に至るまで結構長い時間を子どもたちと共に過ごしていますが、今ご紹介いただいたような活動をしております。

2013年に独立いたしまして、地域の課題を解決する市民の団体という意味で、NPOの活動として汗を流そうではないかということで、自由に誰もが社会の課題解決に取り組める環境を作りたいなということ、それから地域を担う子どもたちの人材育成の場というようなことで、社会教育の視点から活動しながら、実は先ほど市長のお話にもありましたけれども、都心への人材供給ではないということで、地域と繋がって地域で豊かな放課後活動を作ってみよう。こんなことから始めさせていただきました。

子供たちを取り巻く環境ということで、今安定しない国政とか、それから子供たちの問題の課題が多くなったりとか、それから昔のような地域性があるのかというようなことを皆さんもきっと思い浮かぶのではないのでしょうか。集団下校で子供たちが家に帰れば安全なのか、あるいは共働きで、お父さんもお母さんも忙しい中で、子育ては順調に行ってるのか、人と関わる時間は子供たちにあるのだろうか。そのようなことを課題と考え、地域の子供たちに対して関心を高めて地域でできることを担う、子供たちの未来を地域で作ろうという意識を持ちたい。そんな風に思いました。

私自身は子供に3つの力を持ってもらいたいなと思っています。愛すること、人を大切にすること、そして自分で責任を取れるような自立した成長があること、そして何より人の喜び人の役に立つということを分かっていること、ということ考えた時に、私たち大人は実は子供たちに対してどんなふうに行っているのかと思うと、問題を差別化してないことが多いかもしれないという課題も考えております。

そう考えた時に、実は命令を気にして子供の力は育たないなというようなことから、子供たちが自分で気づいて自己肯定感を高めていけるような、そういう成長を望みたい。ニュートラルなポジションで、いつも子供たちの本当の意識というものを見ていきたい。そんな風に思いながら、この活動を続けてきました。そうすると、子供たちが自分が信じてもらえているという信頼関係が全ての最初の糸口になるのかなって思っています。

だからこそ、子供自身が成長の過程において体験を学んだり、いろんな人と関わりを持って、自分で責任をもって解決できるように育ててほしい。そんな風に思っていることを考えると、今世の中で起きている。日々、悲惨な事件とか悲しい事件とかいろんな課題がある。そういうことのためには、解決には地域の力や支援が必要ではないか、自分の子供に対する視点を社会の子供たちという視点に変えて、大人たちは行動していく必要があるのかなと思った時に、子供たちの放課後をちょっと図にしてみますと、こんな風に睡眠時間を削りますと、実は学校外の時間が3200時間といった膨大な時間があるんですね。この時間をどうやって私たち地域が見守っていくのか、協力ができるのか、支援ができるのかと思うと、今まで90年代ぐらいまでは学校地域、家庭がお互いに協力合いましょう。という関係だったのが、今や、やはり学校や家庭を地域が取り巻いていく、そんな風

な意識に変えていくことが必要なのかなという風に思っています。

ということで、私たちはこれからの子供たちに何ができるのだろうかということを考えて、今の仕事がこの先ずっと残っているのか。それから、子供たちが互いに助け合えるような社会になっているのだろうか。コミュニケーション力は育つのかしら？ということを考えると、これは一例ですけども、私どもは生活困窮、それから、保護世帯の学生さん、生徒さんに向けて、学生さんたち大学生の皆さんと学習支援活動を長くさせていただいております。

こういったことを大学生たちが一生懸命考えてやっていただきますと、やはり大事なことっていうのは先ほど市長のご紹介にもありましたが、貧困の連鎖を断ち切るために必要なことは単に学習支援に終わらないで、将来の自分の夢を持って自立した大人になること。そのために誰かが寄り添って一緒に頑張ること。そういうことが必要なのではないかと。

これは学校の例なんですけどね。「弱肉強食」って入れてほしいらしいんですけど、子供が「焼肉定食」って入れたみたいなんです。これは、「新型の車」この型の部分が実は新潟の「潟」、これすごいな、難しいのになって思うんですけど、バツ、先生も途中まで丸つけてバツになってるんですね。で、こんな例もありました。絵を見て4つのカタカナで書きましょう。「パプリカ」ありそうですね。でもピーマンなんですって。だから答えが間違いということで。実は教科書通りにしか学びがないのか、子供の自由なそう捉えた学習ってどうなんだろう？正解か不正解か1つしかないのかなって疑問を持ちました。

そう考えると、例えば指導者と呼ばれる人たちの示唆量が少なくなればなるほど、子供たちの思考力が増えるんじゃないかなと実は思っています。これって実は家庭の中でもそうなのかな？親がいっぱいたくさんを指示、命令をすると、子供たちは考えずに待つてしまうのかなって思います。

そういう意味で地域人材の価値というのは、放課後の子供の生活で一番重要なのは学校生活の延長ではないよと。それから学校の上下や縦の関係ではなくて、放課後では斜めの関係で育つこんなことも提案させていただきたいな。ということから、私たちNPOでは放課後の指導者は先生がいいのかな？誰がいいのかな？と考えた時に、実は専門性がない方がもしかしたらお友達になりやすい、とっつきやすいのかもしれない。地域のおじちゃん、おばちゃんが良いかもしれない。そういう意味では私は第1号として正解だったと思います。

ということで実践例のご紹介です。ちょっと写真が多いので足早に行きます。

自然体験をやっております。こうやって国立赤城青少年の家とかいろんなところでですね。場所を借りて子供たちがニコニコして活動してます。楽しそうです。英語で過ごす3日間。

こちらは廃校を利用した活動なんですけれども、子供たちが自分たちでご飯を作ったり、プログラムを考えて自分たちで決めて自分たちで用意して生活をするというようなキャンプをやっていきます。これは狙いと効果として、普段と違う場所で違う人たちと過ごす。自分で自分のことをする。自

然に対しての意見を感じたり、それから共同することの共有感を持ったり、そして人の意見を聞いたり、自分の意見を伝え合う、こういうことが体験を伴ってできることということから、共に過ごし、共に学ぶというようなスローガンでやっております。

こちらは廃材をお家から持ってきて、子供たちが考えてお店屋さんをします。お店屋さんというのは、実は社会の発信する機会の提供として、地域の方々をお呼びして、いろんなことを作ったものをお売りする。実際にはお金は本当のお金ではないんですけども、そうやって子供たちがどうやって世の中のお金や仕事やそういったものが回っていくのかというような、勉強していただくということからも、子供たちをプロセスの中で体験を持って企画すること。使用や工夫すること、人と関わらないと成立しないことっていうことを学んでいく、違う学校、違う学年、地域をキーワードに学びと体験の場です。

これは放課後イングリッシュと言って英語をやっていますけれども、学校の勉強ではなくって、これがスローガンで“I am OK. You are OK,too!”と書いてありますが、お互いに意見が違っても一緒の場所で認め合うこういったコミュニケーションを中心とした活動です。

こちらは公民館との連携事業です。足利ではありますけれども、チーム戦で言葉にまつわるクイズラリー大会を公民館でやりました。街の歴史と文化に触れるというような活動をしています。

こちらも公民館でやりました。面白サイエンス、答えを知るための学習ではなくって、なぜなぜ不思議、なんでこうなるのっていうところで実は終わるんですね。そういう体験をすることによって興味関心を育てていく。

これは地域とつながる活動でMキッズサミット5年間ほどさせていただきましたが、中心商店街の皆さんと大学生と、それから中央公民館の皆さんと街の中にどんなお仕事あるの？何が嬉しい？何が大変どんな時にもう嫌になったって思う？っていう子供たちが体験をすることで実感をしていくような活動をしました。

そしてこれは足利ですけれども、足利学校という史跡があります。歴史や郷土を知る体験として、地域への愛着とか発見をしていくような活動をしています。

こちらは図書館でのレポーターという、仕事を見ていく、つまり、図書館の裏側では実はどんな仕事になってるんだらうということを見ながら、自分が好きな本を人に勧めていってみよう。人とお話をしてみようということで、なかなかこれも子供たちも楽しそうです。

地域子供教室のボランティアの先生たちのミーティングは適宜やっておりましたけども、いつも子供たちが中心に添えられています。自分の子供を地域の子供という認識で、私たちはさせていただいている、それから中学生、高校生、大学生が交わっていくという意味で、自分たちの今悩みもあるでしょう。それを先輩たちに相談しながら将来を見通していく、課題解決の対話型のお話です。斜めの関係で関わり合うということが大いに皆さんの共感を呼びました。

ここで確認しておきたいこと、学校が変わったのではなくて、地域社会や家庭のありようが変わったという現実の理解が私たちに必要ではないかとすると、やっぱり学校だけに頼っていくことが果たして、私たちにとって答えになるのか。子供たちは学校教育だけでは育たないという当たり前のことがもしや忘れられてるのではないかというようなことがあります。

もう1つここにいくつかあげましたけれども、先ほど市長からお話がありましたが、いろんな問題が子供たちを巡っています。こういう課題を考えた時に、いつも子供が問題なんだろうかって思うんですね。そういうことを考えた時にどう対応していったらいいんだろう。学校でやることと、家庭や地域でやることの整理をしよう。地域や社会の家庭の責任を整理して一体となってここが大切だと思ってるんですが、互いに手を携えてできることをやっていくということで、子供たちが次の世代を担えるためには、今私たちがすべきことを真剣に取り組む必要があるなと思っている次第です。

足早ではございますけれども、私どもの活動の実践発表と、それから私たちが考えている地域の課題解決について少しお話をさせていただきました。是非、皆様地域のおじちゃん、おばちゃんになっていただいてボランティアを募集中ですので、ご連絡をください。ありがとうございました。

司会)

素晴らしいですね、ありがとうございます。井熊さんみたいな地域のおばちゃん・おじちゃんが自分が子育てしてる時にいたら良かったのによって皆さん思ったと思いますが、今からでも遅くないですからね、素晴らしい報告でした、ありがとうございます。

次はですね、この井熊さんがいらっしゃる学校の生徒さんでもいらっしゃるとい、とても若い方です。NPO 法人アスワード代表理事の山本祥一さんです。

ご紹介させてください、現役大学生として学業の傍ら、高校生や大学生で構成するNPO 法人の代表として、伊勢崎市を拠点に子どもの学習支援や居場所作りを目的とした子ども食堂を運営しています。また、様々なイベントで子ども向けワークショップを実施したり、地域住民と子どもたちとの交流イベントを開催したりするなど子どもたちに多様な学びの体験を提供する活動に取り組んでいらっしゃいます。山本さん、よろしくお願いします。

山本さん)

よろしくお願いします。本日は高校生、大学生が地域の居場所を作り、異年齢交流をするという形でお話できたらと思います。

まず、私の自己紹介をさせていただきます。NPO 法人アスワードの代表理事を努めております、山本祥一です。実は、今現在学生でありまして、大学は共愛学園前橋国際大学の児童教育コースというところで教育の勉強を普段は行っております。その他にも、伊勢崎のまちなか謎解きウォークの実行委員会の委員長として、本日から伊勢崎で謎解きウォークを行っていたりだとか、こども食

堂フェアの副実行委員長など、多方面で活動を行っております。

そして、大学の勉強だけではなく、NPO 法人の代表として地域の居場所のために日々活動を行っています。そもそもアスワードというのは「あなたのそばに」という意味の言葉でありまして、いつでもあなたのそばにいて、寄り添える団体にしたいという思いから、伊勢崎を拠点にはしておりますが、子育て支援、地域の居場所を、普段行っています。

突然ですけども、子供が安心して預けられる場所、具体的にどのようなものがあるのかなと皆さん考えてみてください。私が考えていたのは、例えばご近所さんであったりだとか、保育園、ベビーシッターなどあげていました。ですが、地域の居場所、例えば子供会であったりだとか、そういうところが今なかなか少なくなっているのではないのかという実態を思いまして、アスワードでは、現在、子供の教室であったりだとか子ども食堂、学習支援など活動行っております。

アスワードの3つの事業ですけども、現在3つの事業を行ってまして、1つ目が子ども食堂事業、2つ目が放課後の子どもの居場所作り事業、3つ目が学習支援事業ということで3点を行っています。それぞれ見ていきます。

子ども食堂事業としましては、ヒカリエキッチンというのを今行っておりまして、毎月最終金曜日、宮郷公民館で行っています。定員は20名で行っていますけども、ちょうど昨日行われまして、30名以上のお子さんが来て、一緒にご飯を食べたりだとか、あとはお勉強したりだとか、ちょうど昨日はハロウィンが近いということで、ハロウィンのワークショップを行ったりだとかしました。

そして、放課後の子どもの居場所作り事業としましては、アフタースクールを普段、毎月第2月曜日と第3水曜日に行っております。伊勢崎市の広瀬小学校というところで行ってまして、放課後、子どもたちが一緒に大学生を中心にワークショップをしたりだとか一緒にお勉強したりだとか、そういうところを行っています。

学習支援事業としましては、マナアス宮郷ということで、「学び×アスワード」ということで、長期休みに1回なんですけども活動を行っています。イベントと合わせて学習支援を行ったりしています。前回の8月に行われたんですけども、その際はカラオケ大会と一緒に学習支援を併設しまして、勉強が終わった後、子どもたちはカラオケをしながら楽しむイベントを行いました。

そもそもアスワードというところですけども、出来てまだ1年半の新しい団体になってまして、今運営スタッフが36名います。その中でも、中心メンバーとしては大学生が60パーセント以上占めてまして、高校生も25パーセントいます。学生が85パーセントを占めてまして、若者が主体となって地域の居場所を作っている、そんな団体がアスワードとなります。

地域の貢献としましては、例えば今PTAさんと一緒に連携をしまして、謎解きと肝試しを合わせて地区の小学校のPTAと来月行ったりだとか、あとは伊勢崎で子ども会、今子ども会の活動が難しくなってきたりまして、アスワードと一緒に連携しながら子ども会のイベントをしたりとか行っ

ております。そのようにして、地域と連携をしながら地域の子どもたちが地域で生まれて育っていく、そのような活動を日々行っております。

その他にも様々な企業さんであったりだとか一緒の子育て支援を行っている団体さん、伊勢崎市内や前橋市内、複数たくさんあるんですけども、そういう団体さんと連携をしながらイベントを行ったりしています。今写真に出ているのがダンス教室であったりだとか、あとは e スポーツ大会も伊勢崎の企業さんと連携しながら 一緒に行ったりだとか、カラオケ大会、あとは車椅子体験など、様々な活動、そして体験を通して子どもたちが成長できるように活動を行っております。

そして、なぜアスワードが子どもの居場所作りをしているのかというところでお話をさせていただきたいと思います。現在、アスワードが子どもの居場所作りを行っている理由の背景としましては、地域コミュニティの希薄化と呼ばれるものと子どもの体験格差、この背景がアスワードが子どもの居場所作りを行っている理由になります。

地域コミュニティの希薄化としましては、先ほども言うておりますが、子ども会の減少であったりだとか、現在、共働き世帯などのライフスタイルの変化、そういうところで、地域のイベントに、活動に参加したりだとか、一緒に子供たちと過ごせるような居場所ってというのが少なくなっているのかなと思ってまして、そこを背景としまして、アスワードでは、地域と根ざして盛り上げる活動をしたいというところで行っております。

今アスワードが行っているヒカリエキッチンなんですけども、高校生、大学生がボランティアをしていて、子どもたちと年齢が近いってところで、本当に子供たちがすごいいきいきと楽しく、毎回楽しんでる様子も見れています。そのおかげでリピーターさんもとて増えています、大体 7 割ぐらいが毎回利用している子供たちになっております。それ以外にもアスワードの活動を知っていただいて、新しく、初めて利用する方もいらっしゃいますし、初めて利用してから何度も何度もリピートするような方々も増えてきているっていうのがアスワードの特徴なのかなと思ってます。

そして、子どもの体験格差としましては、今、学校以外の、例えば体験学習、音楽体験とか文化体験、自然体験などに親の世帯収入などによって差が見られるというのが現状として挙げられます。子供の体験というのは、社会情動スキル、非認知能力、コミュニケーション能力にも影響されると言われておりまして、アスワードでも様々な体験を行おうという形で今行っています。例えば、先ほど言ったようなカラオケ大会だとかダンス教室、子供たちの親とする機会がないのかなというのもあります。その中で、アスワードが様々なイベントを企画して今行ってるっていうのがあげられます。

そして最後になんですけども、アスワードが目指す子どもの居場所像としましては、地域の子どもの居場所になるようにアスワードがイベント企画をしたり運営をしたりしています。そして、子供が体験できる場ということで、様々な体験を行うことで子どもたちの成長に向けて何か 1 つにな

ればと考えております。そして、地域と連携をするというところで、子どもだけじゃなくて地域の活性化にもつながればいいのかなということで普段、活動を行っております。

以上で報告をさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

司会)

山本さん、ありがとうございました。こういうお兄ちゃん、お姉ちゃんがまた地域にいたらいいのになと思いますね。本当にありがとうございます。

それでは、皆さんと一緒に意見交換の時間に移りたいと思っております。会場の準備を行いますので、その間に意見交換についての留意点、3つお伝えさせていただきたいと思っておりますので、よく聞いてくださいね。まず質問、この後皆さんに質問ありますかという風に聞きますけれども、2分ぐらいでお願いをしたいと思っております。いろんな意見もありますので、意見も言いたくなっちゃうと思うんですけれども、できるだけ質問をお願いできればなと思います。これは2分経つとピヨピヨ言いますので、一応目安として鳴らさせてください。

そして、質問してくれた方に拍手をしてください。これだけの、結構静かな場所で皆さんが代表として質問するっていうのはとても緊張すると思います。これは市長がいつも言うのですけれども、質問して下さった方には拍手を皆さんでしましょうか。

そして、自分と同じ考えの人ってまずいないと思うんです。なので、自分と違った意見を否定しない、そういう意見があるんだなという風に、ぜひ皆さん否定をせず、皆さんに質問を受け取っていただきたい。この3点を守ってご質問いただきますようお願いいたします。

時間の都合上、全ての方からの質問を受けられない場合もございますので、ご了承いただきたいと思っております。質問、ご意見の際には、この後、挙手をお願いいたしますけれども、指名を私の方から僭越ながらさせていただきます。指されましたら、名前と、あと町名をぜひお教えいただければという風に思いますので、よろしくお願ひしたいと思っております。それでは、市長とそして実践報告をしていただいたお二方、この三人で意見交換をしていただきたいと思うんですけれども、初めに、いろんなお話聞きましたよ、市長。すごいですね。

市長)

ありがとうございました。すごく、活動を聞いていただいて、行政としても同じ課題感を持って色々政策はやってるんですけれども、まさにその細かいところを民間の皆さんにもやっていただけてるんで、本当心強いなと思えました。

最初に私が質問してもいいですか？山本さんに聞きたいんですけど、最近の大学生は本当、大人と一緒にだと思ひながら聞かせていただいて、たぶん私と同じぐらいの世代の方なんかは自分が大学生のときを振り返ると、こんな社会課題とかの解決に向けた活動ってしてなかったなって反省し

ながら、遊ぶことしか考えてなかったんですけれども、大学生でこういう活動を始めようと思った、色々子供の体験の格差の問題だとか、地域の希薄化みたいなのは社会情勢としては分かるんですけど、それを自分でやろうと思った、背景みたいなのはありますか。

山本さん)

背景としましては、もともと私は大学の2年生の時にチャリティーサンタ群馬支部の代表を務めていて、そこで初めて、経済的に困難を抱えてる世帯だとか、子育ての現状というのを知ることができました。そこから何とかして自分が貢献して地域のため皆様のためになんかできないかなとの思いから、アスワードというのは設立しました。

市長)

ありがとうございます。皆さん、拍手をお願いします。まさに今子供を、基本条例もそうなんですけど、子供とか若者の意見を聞いて、本当にそういう世代が何考えてるのかな？っていうのを大事にしたいなと思ってるんですけど、私たちが思ってるよりも、今の若者は自分たちで考えて実行する力があるんだなというのも本当に心強く思いました。ありがとうございます。

そして、井熊さん、本当に地域のお母さんがみたいな感じで、ありがとうございました。今日も多分来ていただいている皆さんはこどものことに関心があって、色々地域でも活動してくださってる方が多いと思うんですけど、地域の大人たちはまさに自分の子供じゃなくても地域の子供たちのことを考えて、何かやりたいって思っている人が非常に多いと思うんですけど、なかなかそういう皆さんの思いを形にする場所、あるいは特に学校との関係で学校に任せるんじゃなくて地域でやりたいんだけど、うまくその辺の繋がりとかが難しいことも実際には多いかなと思うんですが、活動してきた中で何かこう苦勞したことだとか、逆にこういう風にしたらうまく地域と学校をつながれたよ、みたいなお話があれば聞かせてもらいたいなと思ってます。

井熊さん)

ありがとうございます。市役所というとおかしいんですけども、行政に対しての壁が高くて突破口が見つけられないんです。日常的に自分の子育てや周辺の人たちの悩みとか、今もこうして子供たちを連れて遊んでいらっしゃるお家の方々、うちには洗濯物もあるのにとかおじいちゃんおばあちゃんもいるのにとかってちょっと気になりながらも子育てしなければいけないような環境を目の当たりに身近に感じてきた時にこれを解決する方法ってどんな方法があるんだろうなっていうことを考えて、こんなことできたらいいのに、こんなのあったらいいのになって思ったことを形にしたい。でも誰かに助けてもらわなければいけないという時にコンコンって言って行政の門を叩いたんですけども、それはできる、できないっていうことがなかなかすぐには結論が出ない。そういうことを考えた時に突破口ってどうやってやるんだろう。あ、じゃあ自分たちで出来ることからスタートするしかない。その少しのちっちゃな一歩を皆さんに共有して、分かってもらった上で、もう一度門を叩こうと思った時に門が開いたんですね。それぐらい行政の壁は高いです。

市長)

すごい分かるという拍手がなりましたけれども、ありがとうございます。そういうリアルな声も色々聞かせていただきながら、何ができるのかというのを考える時間にしていきたいと思いますので、皆さんからの質問だとか意見だとか、また、私以外にもお2人にも聞いてみたいこととかもあれば、ぜひこの後伺いたいと思います。

司会)

分かりました、是非質問したいって方いらっしゃったら手を挙げていただきたいと思います。

参加者 1) NPO 活動の財源

不躰な質問で恐縮なんですけど、市長さんがやられている政策等、税金が使われてらっしゃる。大変申し訳ないんですけども、お二人の活動の資金というのは井熊先生のお給料で回していらっしゃるのか、どこかでアルバイトしてるのか、企業さんからのご寄付があるのか、山本さんはどこかで寄付を募ってるのかどうなのかを喋れる程度で結構ですので、お教えいただくとありがたいなと思ってます。

井熊さん)

ありがとうございます。スタート地点は NPO を立ち上げると言っても、私 1 人でしたので、手弁当です。手弁当なので、大学で仕事してました。そのお給料をいただいてました。独立してからはなんとか組織として動けるようにということだったんですけども、そのプロセスにおいては、色々な方に、実は、行政の壁は高いと申し上げましたけれども、知恵を授けてくださる方もいるんですね。

生涯学習センターを借りて、地域の子どもたちと地域子ども教室をスタートした時に、井熊さん、その努力分かるよって。手弁当でやってるよねって。でも、あなたが 1 人で思ってることは、あなたを通じてしか伝わらないよね。だから、みんなと一緒にできる方法を考えるには、まず少しでもいいから行政に認めてもらえるような活動をしてみたらどうかっていうところで、いろんな申請をさせていただきました。税金の一部を使わせていただけるような、そういう事業に申し込みました。7 連敗。

それから、始めの 1 歩からスタートして、そこからだんだんと皆さんで活動していくようにしたんですけども、1 番のことはボランティアということが何か日本で認識されているのが無償で何かをする。学校の掃除とか公園のゴミ拾いとかがっていうのは、無償で何かをすることが美德で美しいって、確かに美しいし素晴らしい事業だと思うんですけど、やっぱり私たちも生きていかなければいけないので、それについて考えた時に、例えば私たちが、地域子供教室のおじちゃん、おばちゃんたちが今日のお夕飯のおかずが買えるぐらいとか、金額の大小に関わらず対価をちゃんと得られるような仕組みを作って、ボランティアとして PDCA がちゃんと回るようなものを作っていきたい。

そうでないとこの活動は広がっていかない、目の前の子供たちだけに終わってしまうっていうことを考えたので、ちゃんと対価を得られるようなボランティアの仕組みを作りました。ですので、受益者負担もあります。税金を使わせていただいています。

市長)

さっき紹介してもらった中には参加料を200円とか、取ってやってるイベントも多かったですし、あと国のこどもゆめ基金とかも使ったりとか、本当にいろんな資源を使って活動してらっしゃるなと思いましたけど、すごい大事な質問ですよ。ありがとうございます。

山本さん)

私も今活動を行ってるんですけど、NPO法人になったのは今年でして、結構厳しい運営は行っています。そして、税金ですけども、私もこういう風な子供の居場所を作りたいよっていうのを役所の人にお話をしたりしているんですけども、なかなか聞いてくれないというか、検討しますのような形でなかなかうまくいかないということで、私も、井熊さんが先ほどおっしゃったように、地道な努力として本当に色々な申請書だったりだとか助成金を使って運営を行っています。

企業さんも最近ちょっと認めてくださいますし、少しずつですが寄付金とかもいただいているので、そこで運営は行っていますけども、やはりまだまだ始めたばかりで、ボランティアの人も本当に交通費程度ぐらいしか出せないところはあるんですけども、そういう形で今は運営を行っております。

市長)

これは本当に最初からズバっとした質問をいただきましたけど、子どもに関わらず、NPOの活動だとか、民間の皆さんがすごくいいことをたくさん始めていただいても、続けるのが難しいというのは結構出ておまして、とはいえ、全部じゃあそれを行政が何か支援ができるかっていうと、たくさんの方々の支援っていうのはやっぱり難しいところもあるので、どうやって成り立つ仕組みが作れるのかというのは、これから社会課題解決していったり、皆さんが社会で活動する中では大きな課題になってくるなと思うので、その先に行く方からいろんなアドバイスを頂けたらと思います。ありがとうございました。

司会)

次の手を挙げていただいた方、お願いします。

参加者2) 送迎保育ステーションについて

私事になるんですが、昨年11月に生まれ育った大好きな前橋市の方に戻ってまいりまして、7月に第1子が生まれました。ありがとうございます。今まで他人事だった、子育てっていうのが一

気に自分事になりまして、その中で、産後ケアであったりとかってというような、行政の力を借りながらなんとか子育ても頑張っているところなんですけども、その中で、提案になっちゃうんですが、子育てで先進地と言われている千葉県流山市の事例を事前に調べてまいりました。

そんな中で、自宅と保育園の距離がある方に対して、真ん中に入る、「送迎保育ステーション」というのを作っているというのがあるようで、そういったこともあってか、流山市っていうのは子育て世帯に対してすごい人気の自治体ということが分かりましたので、今、少子高齢化で、税収が減って社会保障費が増えて厳しい財政だと思うんですが、そういったものの導入はどうかというところで、この場を借りて、提案させていただきます。以上です。

市長)

ありがとうございます。流山市、すごいんですね。母になるなら流山っていうキャッチコピーで、本当に東京近郊の皆さんが今1番住みたい町ということで、流山に住んでるということで私も勉強させてもらってるんですけども、今お話にあった保育ステーションについては、これから前橋でも必要な取り組みかなという風に思っています、こども支援課の方でも、今後どこの地域にそういうものがあたらいいのかというのは研究していきたいという風に思っています。

なぜそれが必要かと思うと、前橋は公共交通が不便と言われていて、車がある方は車で保育園まで送迎したりとかもできるんですけど、ただ、車持ってない、東京から引っ越してこられて小さなお子さん育ててる方々からしてみると、そんなに遠くなくても、保育園への10分とか15分の距離でも移動が難しいけど、となってしまうと近くに保育ステーション、駅前とかにそういうところがあって、預けて、保育園まで送迎してもらえっていう仕組みができると非常に便利だなという声も伺ったことがあるので、研究をさせていただきたいなと思っています。

あとは、地域によっては文京町は周りに保育園がたくさんあるのかなと思うんですけど、私が住んでいる東地区、新前橋の周りはすごく家も多くて、子育て世帯もたくさんいるんですけども、その分保育園の定員が足りていなくて、地元の保育園に預けたくても預けられない、入れられないという状況が続いていて、そういう地域にとっても、やっぱり保育ステーションがあると子育てがしやすくなるというのは現実的に感じているところなので、今後の保育政策については、いただいたご意見も取り入れながら取り組んでいきたいと思っております。どうもありがとうございました。

司会)

ありがとうございます。他に子育てに関する事。はい、ありがとうございます。

参加者3) こども誰でも通園制度

子どもが小さい時にやはり、先ほどの話にあったような、保育園と家庭を繋ぐ、預かり合って、助け合うというようなサークルを作ってはみたんですけども、最初は良かったんですけども、だんだんお互いに気遣いが、とかあったりして続いていけなくなりました。それがやっぱり行政

とうまく繋がれなかったのもあるのかな、というのと。地域性でそういう人を頼りにするのに気遣いがある、みたいなのがあるのかなと。自分は他県から来たのでもっとサバサバすればいいのに、「近所に言われるからそういうの使えない」とか、そういうのを他県から来た身としては感じたんですけど、今はすっかりその地域性に馴染んでるんですけども。

なので、やっていない訳ではなく、みんなそれぞれ試行錯誤してきているということをちょっと言いたいな、と。それと、こども誰でも通園制度っていうのが始まったということなんですけれども、それはお子さんのためなのか、保護者さんのためなのか、地域のためなのか、今後どういう風に進めていきたいのか教えていただきたいです。

市長)

ありがとうございます。こども誰でも通園制度は子供のための制度という風に私は捉えています。働いてる世帯の皆さんは保育園にお子さん預けるっていうことが多いと思うんですけども、そうではなくて、日頃、お母さんとお父さんと子供だけで、お家の中で子供を育てている家庭、そういった家庭の子どもたちは、先ほどから社会教育って話も出ていますけれども、社会と接する機会、体験の機会が少ないのかなというのもあって、そういった子どもたちの新しい居場所の1つとして、こども誰でも通園制度というのは活用してもらいたいなと思っています。

もちろん子供のためにもなりますし、親のためにもなるということで、みんなのためになる制度として使っていただけたらなと思うんですけども、視点としては、やっぱり子ども家庭庁ができて、やっぱり子供の目線で、今までは親の目線とか、子育てをしている世代の目線とか、大人の目線で、色々子どものためにはこれがいいだろうという風に思って進めてきたことが多かったと思うんですけども、そうじゃなくて、本当に子どもの目線でいろんな制度を見直してみようかというような、今そういう段階になってきているので、子供のためになるものかどうかっていうところが、こども誰でも通園制度も大事な視点だなという風に思っています。いい視点の質問どうもありがとうございました。

司会)

ありがとうございます。他に質問などある方いらっしゃいますでしょうか。ありがとうございます。

参加者4) 子育てと介護の両立

高校生です。今も仕事と子育ての両立が大変な人が多いと思うんですけど、今後私が大人になってくるぐらいになると、今度は介護と子育ての両立ももっと大変になってくると思うんですけど、子育てと介護の両立で大切だと思うことについて教えてほしいのと、子育てと介護を掛け合わせて何か活動ができないかなって思ってるんで、そこについて意見があれば教えていただきたいです。

市長)

まさに、私が今 40 代前半ですけど、50 代ぐらいになると、ほんとに子育てと介護と両方がのしかかってきてしまっているような方もいるなっていうのは感じています。だけど、高校生のうちから、そういう子育てと介護の心配をしていただけるというのはすごい。やっぱり将来のことをしっかり考えているな、すごいなと思います。

そうですね、これは介護の負担というのも結構、それぞれの家庭で大変な状況になっているので、まず 1 つはこれで解決するというわけじゃないんですけど、何が大変かという、結構手続きが介護はすごく煩雑で、いろんな市役所に行って、親の介護のための手続きを働いてる世代がしなきゃいけないっていうところも大変なので、そういったところは今やっているデジタル化だとか DX だとか、そういう力も借りて、なるべく手続きも分かりやすく負担がない形でできるように進めていきたいなと思います。

あとは子育てと一緒に介護もですね。社会資源、いろんな地域の方々にどれだけ協力していただいて、介護がいらぬように健康寿命を伸ばしたりだとか、なるべく地域の皆さんと自立した生活が続けられる年齢を伸ばしていくということが大事になってくるので、そういう地域作りに取り組むことが必要だろうなと思っています。

そして、提案していただいた子育てと介護を一緒に何かできないか？というところでは、今宅幼老所みたいな、おじいちゃん、おばあちゃんと子供たちと一緒に居場所を作って、高齢者にとっても子供たちと一緒に居て張り合いができるし、子供たちの見守りもおじいちゃん、おばあちゃんにやってもらえるような、そういった居場所もミックスした居場所っていうのも増えてきているので、これがまた地域にどんどん増えてくると両方の課題の解決につながるのかな？というのは感じているところになります。ボランティアの方は皆さん結構年配の方も手伝っていただいているってことでしょうか。

井熊さん)

そうですね。今日ご紹介できなかったんですけども、今シニア世代の方々へスマホの使い方とかそういったことの講座を多くさせていただいています。教える人たちは実は同じぐらいの世代だったり、そういうことが得意だったりで、いろんな方々に参加してもらってはいます。それで私もその一員として講師として行きたいなんて言ったらあなたは受講生でしょ？っていう感じで仲間になれまして、ちょっとガクッとしてあの落ち込んだりもしたんですけども。

今ご質問くださった方はまさに私も体験してきているので、難病を持った母を 30 年介護してきています。それから子供を 2 人育てています。仕事をしています。この身いくつあったら足りるかといって自分に何度も問うたこともあります。その度に涙を流したこともあります。でも不思議なもので、人が手を貸してくれるんです。助けてって言ったら誰か手を差し伸べてくれるんです。その助けてってことの一言をどうやってどこに向けて言えばいいのかというところがもう少し明るく見えてくると、きっと明るい未来が来るのかなと思っています。

自分がした苦勞を、私は大変で、ずっと根に持って大変だったと思ってるわけではなくて、今少しずつ使われつつある、いろんな設備があったり、いろんな手助けをする施設があったり、例えば私は今母を施設に見ていただいています。前橋市内の施設にいます。自分が病院に行く時にどうしよう、母のこともあるのと言ったらお母さんのことは心配しないで、私たちはプロだからちゃんと見てるよ。だから安心して病院行ってらっしゃって、そういう手助けをしてくれる。そういう社会が地域でできたらいいなって思ってるんですね。だからそういうことをみんなが少しずつ発信して、人の困りごとに目を向ける目を皆さんが持っていれば、私は少しずつ社会が変わってくるような期待をしています。

市長)

やっぱり孤立しないということと、お節介がいっぱい増えていくといいなという感じですよ。あの、山本さんのアスワードさんは子育ての活動をしてもらってますけど、前橋市内だと若者の団体が孫マネージャーと言って、高齢者のサポートをするような活動してくれている若者の団体もあって、そういうところがセットでコラボレーションしても面白いかなと思います。

はい、でも本当に若い世代まさにこれからの世代からも貴重な質問いただきまして、どうもありがとうございました。

司会)

そろそろあと一人か二人っていう感じなんですけれども、ご質問ある方いらっしゃったらお願いします。

参加者 5) こども食堂の開設

私は6歳と4歳の子どもを育てている共働きの母親なんですけれども、すぐについていうことではなく、将来的に子ども食堂、興味がありまして、やってみたいなという気持ちがあります。高崎にある子ども食堂に子供だったり、自分の母だったりと一緒に行ってみて、いいなっていう風に思っていて、始める時にどんなことが必要なのかなとか。先ほども別の方が始めてみたけれども、こう続かなかつたんだよ、っていうお話があって、子ども食堂いざ始めてみたけれど、スタートよかったけど続かないとかってなると難しくなってくるので、どんな風な工夫が必要なのか教えていただければと思います。お願いします。

市長)

ありがとうございます。今まさに立ち上げていただいている山本さんに。

山本さん)

はい、じゃあ私が今アスワードでヒカリエキッチンを行っているんですけども、始めたのが去年

の9月から始めまして、最初は本当に地区の小さい集会所でやってたんですけども、始めるにあたっては、地域理解というのがすごい大事だな、ということで、地区の区長さんであったりとか、民生委員の方とか、地区の社会福祉協議会の方と打ち合わせを3回ぐらい行って、合意をしていただいて、いざ場所を確保したっていうところになります。場所がないと子ども食堂は始まらないのかなっていうのがありまして、まず場所を確保しました。

その次はやってますよっていう周知が大事なのかなと思います。なかなか最初の方は人数、本当に3人とか4人とかから始まって本当に人数が少ない形から始まったんですけども、地区の小学校に配ったりですとか、あとはアスワードは地区のイベントとかにもあの積極的に参加をしまして、地区のお祭りに出したり、あとは地区のイベントとかでも出店をして、その時に子ども食堂やってるよという周知を行ったりして、人は集めました。

で、行う上で大事なのはやはり食を扱うということで、食の安全確保とかは結構気にしてて、衛生的に大丈夫かどうかとか保健所とかにも相談したりだとか、利用者だけではなく、ボランティアスタッフも万全で楽しく活用できるような工夫ですね、例えば検便とかそういう食品の基礎的なところはやってから、子ども食堂を行っています。以上です。

市長)

ありがとうございます。子ども食堂というのができ始めた時は、子供食堂自体の認知度っていうのも低くて、周知も、こういう活動してるよと言っても何なんだろうこれは？っていうので分かりにくかったと思うんですけど、最近子ども食堂というと皆さんイメージが湧きやすいので、比較的場所がしっかり確保できるとか、あとは運営一緒にやってくれる仲間がいるとか、あとは食材ですよね。どこから寄付してもらえるのかとか、どうやって用意するのかとか、そういった基本的なところがクリアできるとスタートはしやすいのかなと思います。

私もいくつか見ていると、メインで活動している方が子供が大きくなって、例えば中学生になったりすると自分の子供の学校の行事とかが忙しくなっちゃったり、あとは仕事、子供がちっちゃいうちは仕事も時間をそんなに入れてなかったけれども、やっぱり仕事をこうがつりすりようになってくると、なかなか子ども食堂の運営に携わる時間が取れなくなってしまったりということで、メインのキーパーソンが忙しくなると続けるのが大変になってきちゃうなというような団体さんもあるので、その辺はあの継続するために、やっぱりこう仲間をどんどん増やしていったり、次の世代次の世代みたいに繋がっていくと、子ども食堂も長く地域で続けられるのかなって風に思っています。

ただ、目指すのは本当は子ども食堂がいない社会っていう風に、子供の孤食だとか、やっぱりそういう貧困っていうのがないところが一番ですし、子ども食堂というよりも地域の居場所とかみんながそこで新しいコミュニティを作れる場所みたいなので、続いていけるようになるとすごく理想的だなと思っているので、是非、大友町にできたら私も遊びに行きたいと思います。

よろしく申し上げます。ありがとうございました。

司会)

続いて、先程手を挙げてくださった方。

参加者 6) 小学校体育館への冷房設備の設置

先ほど市長さんの話の中で中学校の体育館に冷房設備を作るっておっしゃいましたよね。小学校はどうですか？

市長)

ありがとうございます。今年、前橋市では予算を取りまして、中学校の体育館と市立前橋高校の体育館に冷房をつけるという事で 10 億くらいかかるんですね。ですので小学校もつけたいんですけど、小学校になるとまた学校数も 50 校くらい、倍以上になってくるので、予算の確保とかしながら、今後どのタイミングでというのを考えていきたいと思うんですが今の段階では、いつまでに設置したいです、ということがお答えできなくてすいません。

ただ、空調設備をつけるということ以外にも最近移動式の冷やす装置とかもあるので、場合によってはそういうものも考えながら、他の自治体さんの取り組みも見ながら小学校の活動についても見ていきたいなと思います。

中学校をなんで先にやったかって言うと、これから部活動の地域移行みたいなものもあるので、中学校の体育館はもしかすると地域の方に解放する機会が増えてくるだろうというのもあって、まずは中学校から整えていきたいと思っているんですけども、その辺もお金を確保しながら、いつも財源の話になってしまうんですけども、子供たちの関係というのも考えていきたいなと思っています。

ちょっと踏み込んだ話をすると、とはいえ子供の数も減ってきていて、これからも激増するということは難しいと思うんですけども、ただ学校の施設というのは本当にあちこちに今広がっているので、施設の維持をどうするのかとか、或いは、適正な規模をどうするのかということも考えながら学校の施設の整備っていうのをやっていかなきゃいけないことなので、地域の保護者の皆さんとか、関係者の皆さんともそういった難しい話もこれから重ねていきたいなと思っています。どうもありがとうございました。

司会)

そろそろ最後の質問になりそうなので、いかがでしょう、お願いします。

参加者 7) 幼児教育の重要性

4人の子育てをしている世帯なんですけど、幼稚園のPTA会長をしているんですけども、小川市長に質問です。幼児教育って非常に大事だと思うんですけど、小川市長はどうお考えですか。

市長)

ありがとうございます。大事だと思います。っていうことだけだとあれだと思うんですけど、それは幼稚園か保育園かみたいな意味ではなくて、就学前の子供たちに対する教育という意味でいいんですよ。

いろんなことを学ぶ期間っていうのは学校に入ってから教育だけではなくて、学校に入る前も学ぶことは大事なことで、それは幼稚園での学びもそうですけれども、今日お話しいただいたような、いろいろな地域における学びとか社会教育というのは小さな頃からしっかり機会が増える方がいいなという風に思っています。

ですので、子供たちに何を体験させるか、あるいはもっと知ってもらいたいことってたくさんあるので、自然体験もそうですし、今私がちょっとやりたいなと思っているのは包括的な性教育という、国際的な基準に基づいた、新しい知識というのをしっかり子供の頃から覚えてもらうということも大事ですし、コミュニケーションの取り方についてもいろんな場所で学べるような、そういう前橋にしていきたいなと思っています。どうもありがとうございます。

司会)

たくさん意見を頂きまして、ありがとうございます。最後にこれだけはどうしてもって方いらっしゃいますか？はい、あの方が最後でお願いします。

参加者9) 小学校低学年時のタブレットの持ち帰り

今3歳と0歳の二人の子供を子育てしています。この子のいところが今ちょうど小学校1年生に上がりまして、タブレットを家に持ち帰るようになってきたんですが、小学校は今、私は子育てを始めてタブレットとか家でテレビを見せないようになるべく心がけて、家族との会話を増やしたり、外の公園とか、近所の交流とかをなるべく持たせたいなと思いながら子育てをしているんですけど。

そこで外食とかたまにすると、子供に携帯を見せる家庭が増えてきてるな、っていうのがちょっと見られていて。そこで小学校1年生に上がったところがタブレットを家に持ち帰るようになってきて。その学校でやる延長とは分かっているんですけど、もしこの子が小学校に上がった時に、家に小学校1・2・3年生まではちょっと家に持ち帰って欲しくないなって思いながら、高学年になったら、持ち帰って勉強に生かす分にはいいかなと思うんですけど、まだ低学年の時に、本とかなんかそういう自然のものを学べる機会がある中で、タブレットを持ち帰ってきてしまうのが私の中では、メリットはあると思うんですけど、それ以外にも生かせることがあるというか、それについてはこれからも継続していくと思うんですけど、もし変えられるなら中学年とかになってからだとどうかなと思うんですけど、それについてはどう思いますか。

市長)

ありがとうございます。ICTとか、インターネットとの付き合い方っていうのは皆さんそれぞれの家庭で難しさを感じているところがあるかなと思います。ツールとしてやっぱり使える、使いこなせることが今重要だという風に言われることもあれば、とはいえやっぱり年齢によって成長の過程によって、あんまり小さいうちから使わせたくないっていう保護者もいるのはその通りだと思いますので、これは教育委員会に宿題で持って帰ってもらってもいいですかね？

今日教育関係の皆さんも来ていらっしゃるので、持って帰った後にどういう使い方をするかとか、学校から課題をそのタブレットで出すのか、或いは本当に自主学習で使ってもらうのか、やり方も色々あると思いますし、そもそも持って帰らないという選択肢ができるのかどうかも含めて、それぞれの学校で、保護者の意見と学校側とで話し合う機会があると本当はいいのかなと思うんですけども、そういう場が設けられるかどうかも繋げさせていただけたらなと思います。本当はこういうところを保護者の方に聞いてみたいところがあるんですよね。また、あの次の機会の時にも聞かせてもらえたらと思います。どうもありがとうございました。

司会)

たくさんの方からご意見を頂いて、これからの前橋、未来の子どもたちを考えるという機会を与えてくださって、本当にありがとうございます。そろそろ時間となりましたので、意見交換の場を終了とさせていただきます。山本さんと井熊さんにも一言ずついただいて、最後に市長からのご挨拶で終了とさせていただきます。

山本さん)

本日はお忙しいところありがとうございました。私どもまだまだ未熟でして、本当に井熊先生にもお勉強させていただきながら、まあ皆さんの、地域の方の意見も聞きながら子育て支援っていうのを引き続きアスワードでも行っていきたいな、と今日講演を聞いて思いました。本日はありがとうございました。

井熊さん)

このような機会いただきまして、実践発表等させていただいたこと、大変光栄に存じます。私はNPOの中の、メンバーの中の1人のスタッフでしかありません。それは皆さんと同じように生活をして、皆さんと同じようにものを見て、皆さんと同じように不満を感じ、皆さんと同じように幸せを感じ、いろんなことを日々感じながら暮らしています。思うのは問題に、課題を解決、課題を解決って、今日何度も申し上げましたけれども、課題は課題としてどうなったらいいのかなっていうことをまずイメージすると少しだけ心が軽くなるような気がいたします。ですので、こんなことがあったらいいな。こんな風になってくれたらいいなっていうことを、それを実現するためにはどういう方法があるかなっていうような考え方で日々暮らそうと思っています。是非皆さんとご一緒にま

た1つ1つ活動が続けられたらと願うばかりです。本日は本当にありがとうございました。

市長)

第3回前橋のこども・子育てについて皆さんと色々と共有できて良かったなと思います。宿題もたくさんいただきましたけれども、多分発言していただいた皆さんはそれぞれ自分の考えとか困ってることを提案いただきましたけれども、聞いていた皆さんもそういう考えがあるんだな。とか、まあそれは共感できるな、とか、うちはそうじゃないなとか思った方が多かったと思います。

でもそれがやっぱり大事だなとは私は思っていて、そのいろんな考えがある中で選択肢がないと、そういう皆さんのそれぞれの生き方だとか、大事にしたいことが実現できないんだと思うので、やっぱり困ってる時に選択肢がいっぱいあるとか、人とは違う自分の生き方ができるような社会を作っていくことが大事ですし、そこに支えられる皆さんが子供たちのためになんとかしたいとか、困っている人のためになんとかこうできないかなっていう風に思ってこうやって集まってくれる人がたくさんいる前橋っていうのは非常にこれから心強いなと思って、今日も参加をさせていただきました。

また、発言がし足りなかった方、今後もですね、こういったタウンミーティングの機会、また作っていきますので、是非また機会のあるごとに参加をしていただいて発言していただけたら嬉しいなと思います。あの今日は本当にどうも皆さんありがとうございました。

司会)

ありがとうございました。以上を持ちまして令和6年度第3回タウンミーティングを終了とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。なお、受付時に本日のタウンミーティングに対するアンケートのご案内をさせていただいていると思います。忙しいところ恐縮ですが、10月28日の正午までにご回答いただければと思っておりますので、何卒よろしく願いいたします。それでは皆様気をつけてお帰りくださいませ。

以上